



角田市地域公共交通計画

概要版

■計画の概要

角田市の地域公共交通は、阿武隈急行線が福島市・仙台市方面を南北に結ぶほか、市内移動をデマンド型乗合タクシー「ラビットくん」が担い、地域の足として活用されています。

しかしながら、人口減少や少子高齢化に伴って利用者数が減少する一方で、事業環境は運転手不足や物価高騰等の影響によりますます厳しくなっています。

また、住民アンケート調査からも「公共交通システムの存続・利便性の向上」について多くの住民から見直しが求められています。

こうした現状から、本市にとって望ましい地域公共交通の姿を明らかにするマスタープランを示し、利便性の高い持続可能なネットワークを構築するため『角田市地域公共交通計画』を策定しました。

■上位計画

角田市第6次長期総合計画

即する

角田市地域公共交通計画

■関連計画

角田市
立地適正化計画
(令和10年度策定予定)

宮城県
地域公共交通計画
など

角田市
都市計画
マスタープラン

阿武隈急行線
地域公共交通計画

連携

■公共交通を取り巻く課題

課題

課題A

阿武隈急行線の利用拡大

○阿武隈急行線の持続性に課題がある中、通勤・通学利用を中心に潜在的な需要も一定数存在し、今後も市内外の移動手段として支えていくため、さらなる利用拡大が必要。

課題B

角田駅を起点とした二次交通の確保

○阿武隈急行線の利用拡大と併せて、様々な移動ニーズに対応し公共交通の一体性を高めるための接続性・利便性の高いネットワークの構築が必要。

課題C

交通拠点の位置づけを踏まえた待合環境の整備

○交通モード間の接続性・利便性を高めるため、まちづくりと連携しつつ、角田駅や賑わい交流拠点である「道の駅かくた」等の交通拠点としての環境整備が必要。

課題D

デマンド型乗合タクシーにおける利便性・効率性の向上

○ラビットくんの利用ニーズを踏まえ必要な移動サービスを確保しつつ限られた資源を有効活用するため、AIデマンド等の活用も視野に入れた利便性・効率性の向上が必要。

課題E

輸送資源をフル活用した公共交通体系の再構築

○限られた財源や人材の中で、市内全体の移動利便性を向上させるため、公共交通と併せてスクールバス等の輸送資源と相互に補完が可能な体系の構築が必要。

課題F

公共交通の利用につなげるための認知度向上

○公共交通の周知不足が利用拡大が進まない一因として挙げられるため、各交通モードの相互利用につなげるためにも、公共交通の認知度向上が必要。

課題G

市民・事業者・行政が一体となった公共交通の利用拡大策

○事業者の努力だけでは公共交通の維持・確保には限界がある中で今後も維持していくためにも、市民・事業者・行政が一体となって公共交通を守り支えていくことが必要。

■基本理念・基本方針

角田市を若い世代から高齢の世代までが「安心して住み続けられるまち」の実現に向け、誰もが気軽に快適に外出できる地域公共交通ネットワークの基盤づくりに取り組むため、角田市の公共交通が目指す将来像を以下に掲げ、その実現に向けた4つの基本方針を設定します。

■地域公共交通の基本理念（目指す将来像）

～市民生活を支える地域公共交通ネットワークの基盤づくり～

基本方針1

阿武隈急行線を南北軸とし、角田駅を起点とする二次交通の確保による公共交通ネットワークの構築

基本方針2

地域の輸送資源のフル活用による持続可能な運行体制の構築

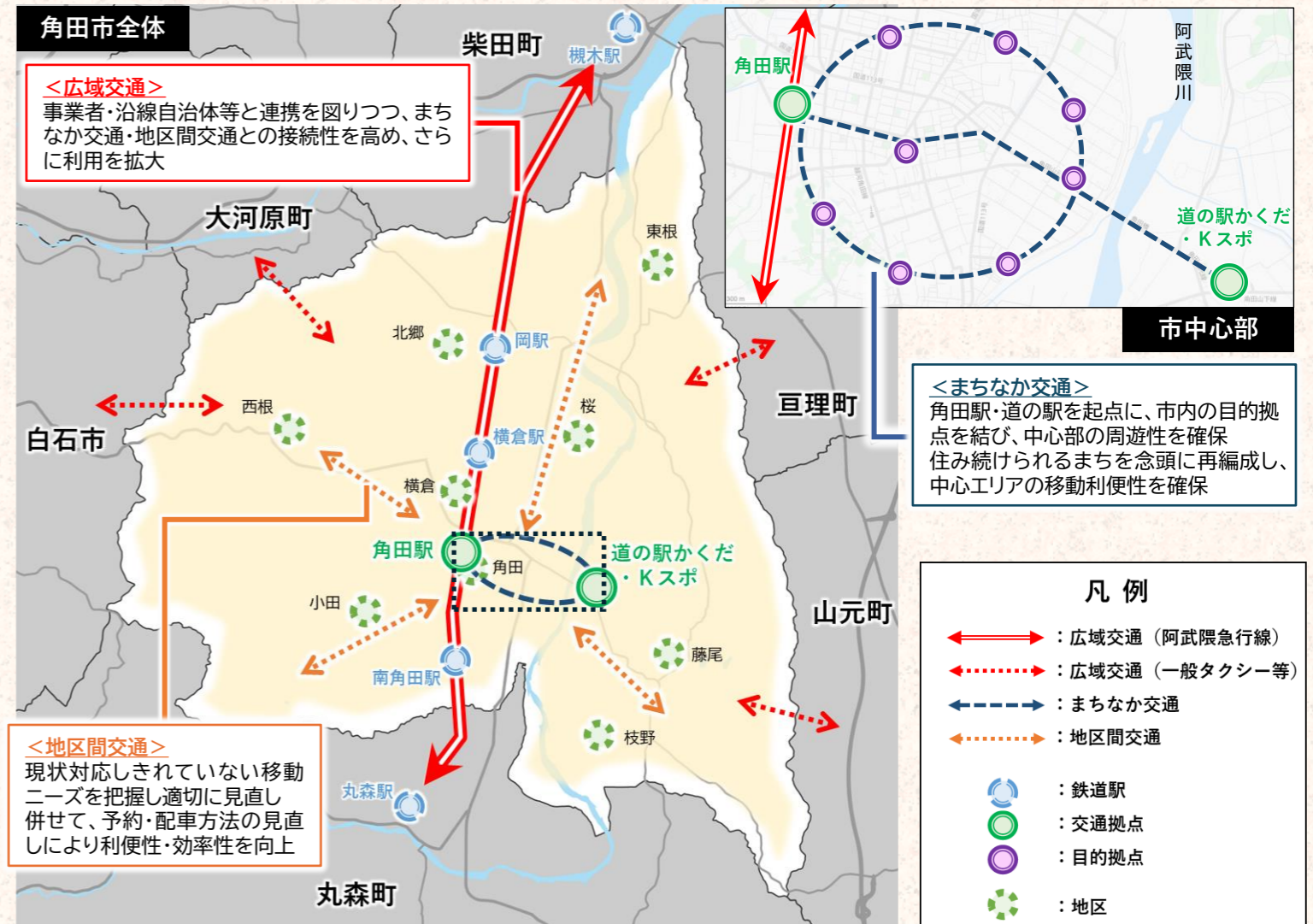
基本方針3

わかりやすく快適に公共交通を利用できる環境の整備

基本方針4

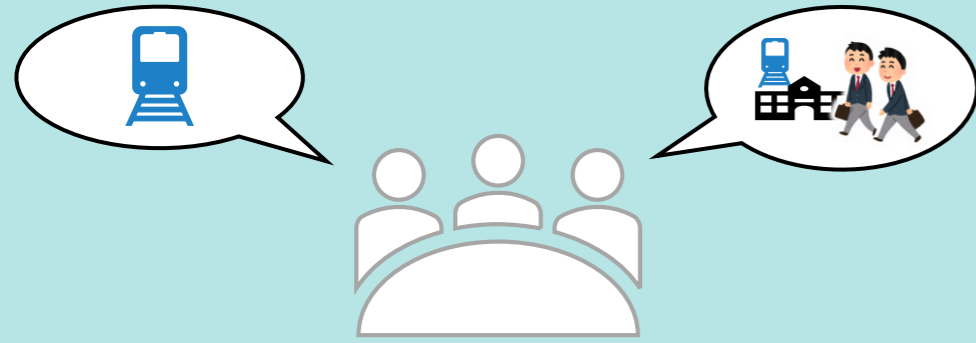
地域共創による公共交通に対する意識の醸成と利用促進

■公共交通のネットワークイメージ



目標達成のための施策・取組、スケジュール

施策1 阿武隈急行線の利用拡大に係る関係機関との協議



「阿武隈急行線地域公共交通計画」および「阿武隈急行線在り方検討会 提言」に基づく各種取組みを関係機関と連携しながら検討・推進します

施策3 デマンド型乗合タクシーの運行サービス見直し



インターネットからの予約サービスの導入を検討します

配車時のAIデマンドの導入を検討します

施策5 地域の輸送資源の活用



スクールバス等の活用を検討します 各地区で検討中の送迎事業と連携します

施策6 市内の公共交通の運行情報等の周知



総合時刻表や公共交通マップ、利用案内などの作成を検討します

インターネットでの情報発信やGTFSデータの整備を検討します

施策2 交通結節点（ハブ）の整備



交通拠点として角田駅・道の駅かくだの整備を検討します



目的拠点における待合環境の整備を検討します

施策4 まちなか循環線の整備



角田駅を起点として、阿武隈急行線等との接続も考慮したまちなか循環線の運行を検討します

施策7 市民・事業者・行政の連携による公共交通の利用促進



ワークショップ等を実施します



説明会・体験会の実施等を検討します

No.	施策内容	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	
1	阿武隈急行線の利用拡大に係る関係機関との協議	関係機関との協議・施策の実施（適宜）						
2	交通結節点（ハブ）の整備	角田駅：検討・協議		道の駅かくだ：検討・協議		目的拠点：検討・協議		
		角田駅：検討・協議		道の駅かくだ：検討・協議		目的拠点：検討・協議		
		角田駅：検討・協議		道の駅かくだ：検討・協議		目的拠点：検討・協議		
3	デマンド型乗合タクシーの運行サービス見直し	準備・調整 (現運行サービスの見直し、実証運行計画作成・システム開発等)		実証運行		本運用		
		準備・調整 (ニーズの分析・運行サービスの検討、実証運行計画作成)		実証運行		本運用		
5	地域の輸送資源の活用	スクールバスの活用の協議・検討						
6	市内の公共交通の運行情報等の周知	利用案内資料を作成			対象施設等へ資料の掲載依頼・見直し等に合わせて適切に更新			
		データを作成			ダイヤの見直し等に合わせて適切に更新・データ利活用方策の検討			
7	市民・事業者・行政の連携による公共交通の利用促進	定期的なワークショップやモビリティ・マネジメントの実施						